

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 90
平成29年

平成29年度日本庭園学会

関西大会のお知らせ

発行 日本庭園学会(会長 鈴木久男)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境学部 造園科学科
ガーデンデザイン研究室内
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

平成29年度 日本庭園学会 関西大会のお知らせ

平成29年度の関西大会は、平成29年11月11日(土)、12日(日)の2日間にわたって京都市内を会場として行われます。1日目の現地検討会では、平成27年度より進められている京都市指定名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園の修理事業について、その従事者からの解説が行われます。2日目は研究発表会を行います。

記

【開催年月日】

平成29年11月11日(土)、12日(日)

1日目 現地検討会：大原三千院(京都市左京区)

13:45 受付開始

14:00 開会

17:00 終了

懇親会

18:30(京都市左京区百万遍付近)

2日目 研究発表会：京都アスニー・京都市生涯学習総合センター 第3研修室

(京都市中京区聚楽廻松下町9の2)

9:30 開始

16:30 終了予定

【研究発表への申し込み】

研究発表会での発表希望者は、下記の要領にしたがって申し込むこと。発表時間は、ひとりあたり25分とし、発表20分、質疑応答5分を予定している(但し、発表者数によって変更する場合がある)。発表にはPCプロジェクターの使用が可能。

<問い合わせ>

宮内泰之(日本庭園学会 総務担当)

電話：042-376-8602 メール：miya@keisen.ac.jp

◆発表申込み方法

発表者氏名・所属・題名・連絡先を明記し、発表概要(200字程度)を添付のうえ下記の「発表申込先」まで送付すること。原則的にはEメールとするが、郵送もしくはFAXでもかまわない。

電話での問い合わせには応じられないので注意のこと。

提出期限:平成29年9月27日(日)必着

Eメールでの送付の場合は、同日23:59までとする。

◆発表要旨 執筆要領

全発表者分を研究発表要旨集として印刷し、当日参加者に配布する。原稿はそのまま要旨集の版下とするため、ワープロを使用して作成することが望ましい。分量は、A4判で2ページもしくは4ページ、6ページとする(奇数ページでの原稿は、受け付けないので注意すること)。プリントアウトを下記の「発表申込先」まで送付すること。郵送を原則とする。1ページあたりの文字数及びページレイアウトは、学会誌の論文の書式に準じ、横書き2段組、1段あたり25字40行となっている。なお、書式は日本庭園学会ホームページからダウンロードが可能となっている。

申し込みと資料提出の締め切り日は厳守のこと。

提出期限:平成29年10月15日(日)必着

◆発表の申込み先・要旨集版下原稿の送付先

〒606-8271

京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター一気付

日本庭園学会関西支部事務局

(担当者:関西支部長 仲 隆裕)

ファクシミリ: 075 - 791 - 9127

E-mail:naka@kuad.kyoto-art.ac.jp



三千院庭園の修理状況



三千院庭園の池の水を抜いた状況

レポート

平成29年度全国大会 現地検討会 (6 / 17)

平成29年度全国大会現地検討会(浜離宮)に参加して

今回、日本庭園学会の方々と浜離宮庭園を見学させていただきました。あらためて振り返ると、とても貴重な体験をさせていただいたと思います。普段は入れない御茶屋に入らせていただき、聞けない特別なお話を聞かせていただけたことなど、濃い時間を過ごすことができました。

私は、今回初めて浜離宮庭園を訪れました。高層ビル群に囲まれているのに、この庭園の中だけ時間が止まっているような感覚を覚え、しかし、それがまたどこか心地良く感じました。特に、お伝い橋からみた潮入の池と中島の御茶屋、蒼く澄み渡った空、生い茂る樹木、そして高層ビルのコラボレーションの景色は圧巻で、かっこよかったです。ガイドの中山さんもおっしゃっていましたが、徳川将軍は、将来庭園の周りに太陽光に照らされ光り輝くこのような巨大な建造物がそびえ立ち、見下ろされるなんて考えてなかったでしょう。また、こんなに多くの外国人がこの庭園に足を踏み入れる、なんてことも考えてなかったのではと思います。空飛ぶ鉄の塊で海を渡り、肌の色も髪の色も目の色も違う人種が江戸の風景になじんでいる21世紀の世界を、将軍に見てもらいたいと思いました。

今回は、昼間の浜離宮庭園を見学しましたが、夜の月明かりに照らされ、潮入の池に月が映っている景色を中島の御茶屋から眺めるのは、きっとまた素敵なんだろうなと思いました。閉園時間は17時なので、それを叶えるのは難しそうですが、それは将軍の特権ということにしておこうと思いました。

恵泉女学園大学 社会園芸学科 3年 小師佳奈



浜離宮庭園

レポート

平成29年度全国大会 (6 / 17・18)

平成29年度全国大会に参加して

6月17日(土)18日(日)平成29年度全国大会に参加した。

17日の現地検討会は、東京都中央区の浜離宮恩賜庭園である。梅雨の晴れ間の日差しの中、公園職員の方に案内していただいたの検討会であった。

今回の楽しみの一つは復元された御茶屋。燕の御茶屋と松の御茶屋が復元され、現在、鷹の御茶屋を復元中であった。今回、東京都公園協会の菊池正芳氏の特別のご配慮で、復元された御茶屋の内部も見学させていただいた。

いずれの御茶屋も池に面して眺めがよい。発掘調査成果や絵図などの資料に基づき復元整備されている。燕の御茶屋は、確認された遺構面に40cmの盛土による保護層を設けているという。池の汀と遺構保護のバランスを考慮してのことであろう。当然、江戸時代の座敷より高い位置からの眺めになる。

燕の御茶屋は、将軍の御座を一段高く設え、釘隠しにそれぞれ姿の違った燕の意匠を用いるなど凝った造りである。こじんまりとして、プライベートな空間との印象を持った。一方の松の御茶屋は、二間に分かれた座敷が広く、開放感がある。それぞれの空間で楽しみ方も違ったことがうかがえる。やはり、庭園とそこに配された建物とは、一体となって景色が造られること実感する。

池岸では船着きまで入り、その先端でしゃがんで船の高さから眺める景色を体験させていただいた。御茶屋から眺める池は、一幅の絵を見るようで、ある意味平面的であるが、水面に近づくと太陽の光を反射するきらめき、飛び跳ねる魚があげる水しぶきと音、水面を渡る風、そして水の匂い。五感を総動員させられ、池の中に入り込むような感覚に陥る。

浜離宮庭園の借景？は高層ビル群である。周辺の開発で初めてタワーマンションが計画された時、新聞に大きくその広告が載ったことを思い出した。そんな暴挙が許されるのか！と憤慨した覚えがあるが、今や池の向こうにタワーマンションやオフィスビルが何棟も立ち並ぶ。江戸時代の庭と21世紀の景観が同時に眺められるということで、外国人観光客には面白がられているという。発想の転換が必要か。

2日目のシンポジウム、中島宏氏の庭園学会賞受賞講演では、現地検討会でじっくりと見学させていただいたおかげで浜離宮恩賜庭園のこれまでの整備、維持管理などについて実感を持って学ぶことができた。筆者が普段関わっている庭園は、これほど大規模な庭園ではないが、植栽管理や歴史を踏まえた整備、公開方法など、今後の庭園の保存・活用を考える上でとても参考になった。

現地検討会、研究発表会、総会、授賞式、シンポジウムと、佐々木邦博副会長を中心に運営委員、事務局の方々のご尽力により大変意義深い大会となった。みなさまに感謝申し上げます。

足立佳代



現地検討会の様子



研究発表会の様子

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

協力者：中野理香・大野由理（植彌加藤造園株式会社）

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-1

京都造形芸術大学日本庭園研究センター 気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342